平成26年5月29日発行(21710)

海の情報

浜へのたより

http://www.fklab.fukui.fukui.jp/ss/

第 284 号

福井県水産試験場
TEL:0770(26)1331
FAX:0770(26)1379
suisi@pref.fukui.lg.jp

〔海の状況（4／16～5／15）〕

神子表面水温‥期間を通して概ね平年並み（過去30年平均±0.5℃程度）で推移していた（図1）。

米ノ表面水温‥4月中旬から下旬にかけてはやや低め（過去15年平均より0.5～1.0℃程度低め）で推移していたが、その後は概ね平年並み（過去15年平均±0.5℃程度）で推移していた（図2）。

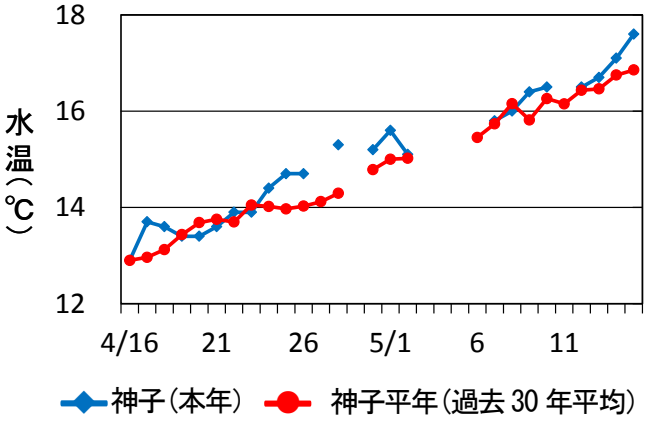


図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

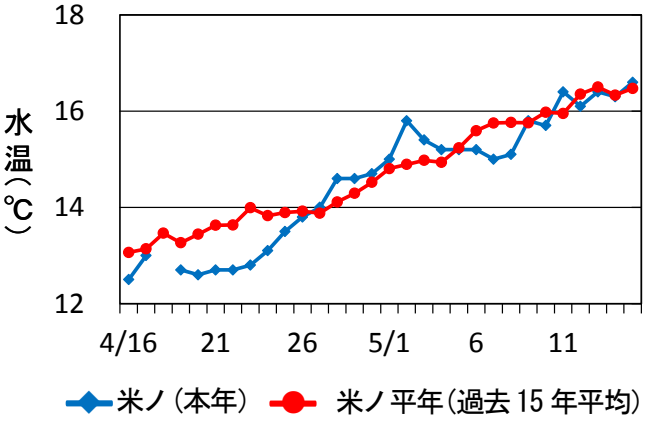


図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温‥2014年5月上旬の若狭湾沿岸域は11～12℃台の水温分布となっていた（図3）。なお、昨年同時期については13℃台の水温分布であった（図4）。

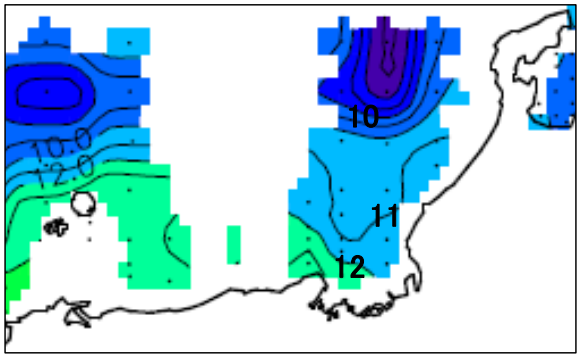


図 3. 2014 年 5 月上旬の 100m 深水温

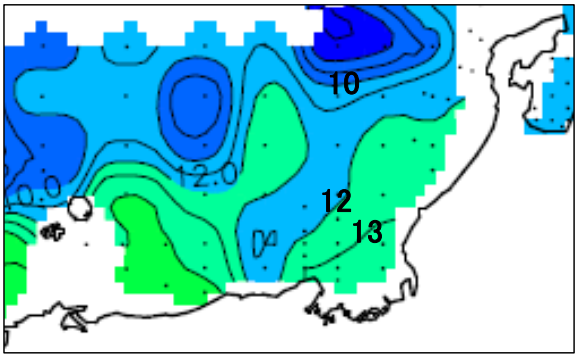
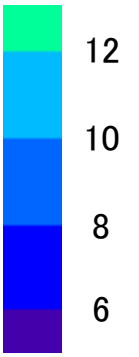


図 4. 2013 年 5 月上旬の 100m 深水温



資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

平成 26 年度　第 1 回　日本海スルメイカ長期漁況予報

日本海区水産研究所からみだしの予報が発表されましたので、その概要をご紹介します。

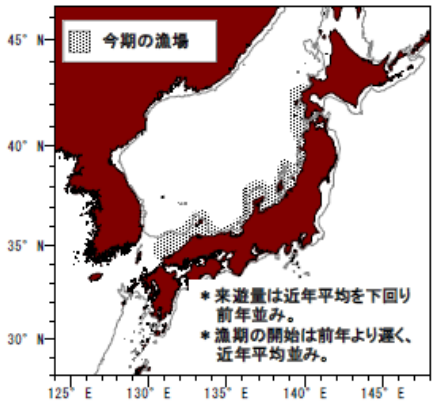
○来遊量　　近年（2009～2013年）平均を下回り、前年並み。

○漁期、漁場　　漁の始まりは前年より遅く、近年平均並み。

○魚体の大きさ　前年および近年平均並み。

詳しくは（独）水産総合研究センターのホームページ（http://www.fra.affrc.go.jp/）からも閲覧することができます。

（宮田克士）



〔県内の漁模様：4月〕

2014年4月の県内の総漁獲量は1,223tで、昨年同月を462t上回った。

定置網

漁獲量は410tで、アジ類、ブリ（ツバス・ハマチ銘柄主体）、サワラ、フグ類等の魚種を中心に前年同月を148t上回った。一方、マダイ、スズキ、スルメイカ等は前年同月を下回った。

底びき網

漁獲量は653tで、アカガレイ、ハタハタ、ホタルイカ等の魚種を中心に前年同月を323t上回った。一方、キダイ等は前年同月を下回った。

釣り・その他

漁獲量は160tで、アマダイ、スルメイカ、ヤリイカ等の魚種を中心に前年同月を9t下回った。一方、ヒラメ、メバル類等は前年同月を上回った。

（単位：kg）

定　置　網			
魚　種	2014年	2013年	04-13平均
マイワシ	1,643	9,305	1,789
カタクチイワシ	3,350	1,013	5,118
アジ	19,426	7,956	50,940
小アジ	7,023	2,823	51,364
アオアジ	120	94	852
サバ類計	306	1,851	3,482
マグロ類	2,943	301	1,890
ブリ計	132,727	71,059	121,191
（ブリ）	3,134	2,701	3,143
（ワラサ）	6,212	10,227	9,211
（ハマチ）	8,974	6,156	25,986
（ツバス）	114,407	51,974	82,851
ヒラマサ	2,506	914	515
サワラ	56,818	44,072	69,443
サケ，マス	3,132	2,180	2,239
マダイ	8,804	16,399	22,833
クロダイ	1,196	1,913	1,285
スズキ	14,452	20,858	16,444
ヒラメ	5,847	1,041	1,033
フグ類	98,091	14,816	8,148
スルメイカ	16,466	29,314	22,050
コウイカ	3,131	1,753	2,077
合　計	410,250	261,792	410,605

底　び　き　網			
魚　種	2014年	2013年	04-13平均
マダイ	2,693	1,635	2,132
キダイ	1,825	3,550	3,179
スズキ	2,554	1,280	1,749
ヒラメ	3,468	2,332	2,869
アカガレイ	113,407	110,732	88,124
その他カレイ	67,948	38,818	34,626
フグ類	1,626	2,133	622
アナゴ	5,878	2,577	2,073

底　び　き　網　の　つ　づ　き			
魚　種	2014年	2013年	04-13平均
ハタハタ	24,010	10,488	45,090
メバル類	1,564	1,245	1,301
ホタルイカ	338,912	101,382	254,274
タコ類	6,694	4,276	6,678
アカエビ	38,167	16,857	36,962
その他エビ	6,756	4,078	5,114
合　計	652,632	329,739	514,730

釣り、延縄、さし網、その他の漁法			
魚　種	2014年	2013年	04-13平均
ブリ計	8,424	11,952	17,854
（ブリ）	132	3,248	671
（ワラサ）	890	726	807
（ハマチ）	629	1,021	12,851
（ツバス）	6,772	6,957	3,523
マダイ	4,885	4,245	5,367
キダイ	733	2,779	1,770
アマダイ	2,179	5,427	4,513
スズキ	3,909	6,354	2,885
ヒラメ	4,704	3,420	7,659
その他カレイ	17,193	11,703	13,109
アナゴ	2,555	2,679	2,473
メバル類	21,116	11,728	11,719
スルメイカ	25,658	36,824	52,081
ヤリイカ	1,776	5,656	4,683
コウイカ	2,479	2,401	3,813
タコ類	6,934	12,130	13,958
合　計	159,908	169,196	207,074

総　計	2014年	2013年	04-13平均
	1,222,789	760,728	1,132,409

※（　）は銘柄
※その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類
※その他エビはアカエビ以外のエビ類

〔近隣府県の漁模様〕

（漁獲状況……石川県；4月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府；4月のJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県；4月中旬～5月上旬の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県；4月中旬～5月上旬の1統あたりの漁獲量。）

石川県……定置網……カタクチイワシ10.6t、スルメイカ6.6t、サバ類2.5t、マアジ2.0t、ブリ（フクラギ銘柄）1.4t、マイワシ1.0t。

京都府……定置網……カタクチイワシ6.9t、サワラ5.4t、サゴシ2.8t、マイワシ0.8t。

兵庫県……定置網……アジ365kg、ブリ（ツバス銘柄）158kg、スズキ41kg。

鳥取県……まき網……ブリ類16.0t、カタクチイワシ9.6t、マアジ8.7t、マサバ1.0t。

（宮田克士）

飼料に梅果汁を添加したトラフグ養殖試験

水産試験場では、飼料に梅果汁を添加することで、寄生虫の感染を防ぎ、安心で安全な「若狭ふぐ」養殖を目指すために、平成23年度から25年度まで飼料に梅果汁を添加したトラフグ養殖試験を行いましたので、試験結果を総括して報告します。

試験は、県内の4地域（敦賀市(H23)、若狭町(H24)、小浜市(H23とH25)、高浜町(H24)）で、魚体重1kgあたり0.2mlの市販5倍濃縮梅果汁を配合飼料に入れて給餌している区（以下、梅試験区）と通常の配合飼料を給餌している区（以下、コントロール区）の２つの試験区を設定し、成長とハダムシ・エラムシの寄生数の比較を行いました。

まず、梅果汁を添加することによる成長への影響ですが、モニタリングの結果、体長・体重ともに梅果汁添加による成長への影響は見られませんでした。また、試験期間中大量斃死なども見られず、生残への影響もないと思われました。

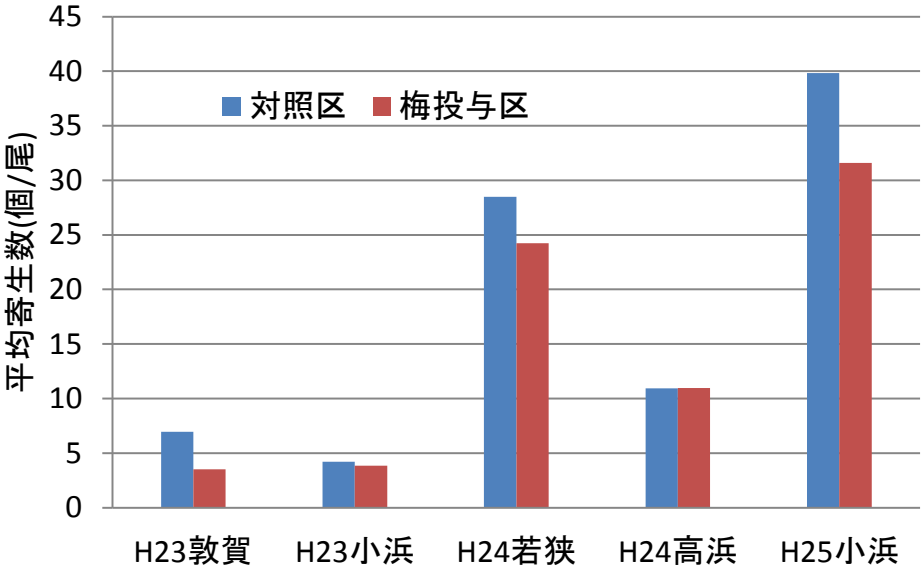


図　各地区の試験期間中のエラムシ平均寄生数(0 歳魚 6～2 月)

次に、寄生虫防除効果ですが、ハダムシについては明確な防除効果は確認できませんでしたが、エラムシについては、右のグラフのとおり、各地区、各年度とも寄生数が少ない傾向がみられ、エラムシにはある程度の防除効果が見られました。

梅果汁添加のコスト計算では、以下の算出条件で計算した結果、マリンバンテル毎月使用と比べて、約22万円のコストダウンが可能と計算できました。

＜算出条件＞
・トラフグの飼育尾数8,000尾、出荷時の生残5,600尾
養殖期間は1年半
・マリンバンテルについて
価格：25,380円/500g(税込)
投与量：0.1g/魚体重1kg
・5倍濃縮梅果汁について
価格：38,556円/18L(税込)　　投与量：0.2ml/魚体重1kg

表　マリンバンテルと梅果汁のコスト比較

	マリンバンテル	梅果汁
回数	毎月１回	
出荷までの投薬回数または期間	１０回	７～翌４月，９･１０月
必要量	9.1kg	107.5L
金額(円)	461,916	230,265

・マリンバンテルの投薬回数は、水温が低い1～5月を除き、毎月投薬として計算
・梅果汁の添加期間は、エラムシが寄生されにくい1歳魚の夏期を除いた月とした。
・梅果汁の各月の添加は、冬期は8回/月、他の期間は毎日とした。

（田中直幸）

ブリの漁獲状況について

5月に入りブリがまとまって漁獲されるようになりましたので、5月上旬時点での漁獲状況と近年の漁獲動向等についてお知らせします。

福井県においてブリは定置網を中心に年間1,500～2,500t程度漁獲される、主要魚種のひとつです。ブリというと「寒ブリ」のイメージが強いかと思いますが、福井県では近年では5～6月にかけて漁獲のピークがみられます（図1）。下のグラフは2011～2014年の定置網による漁獲量を4月1日～6月末まで日別に集計したもので、ゴールデンウィーク頃から1日数十t～100t以上の入網が始まり、大量入網は概ね5月いっぱいで終息するというのが近年の傾向です（図2）。

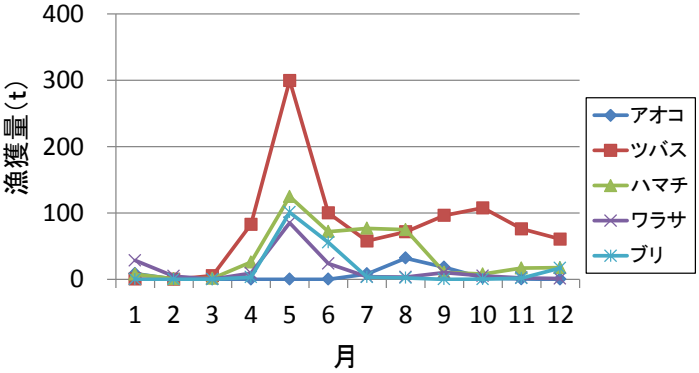


図１　ブリの月別銘柄別漁獲量（過去 10 年平均）

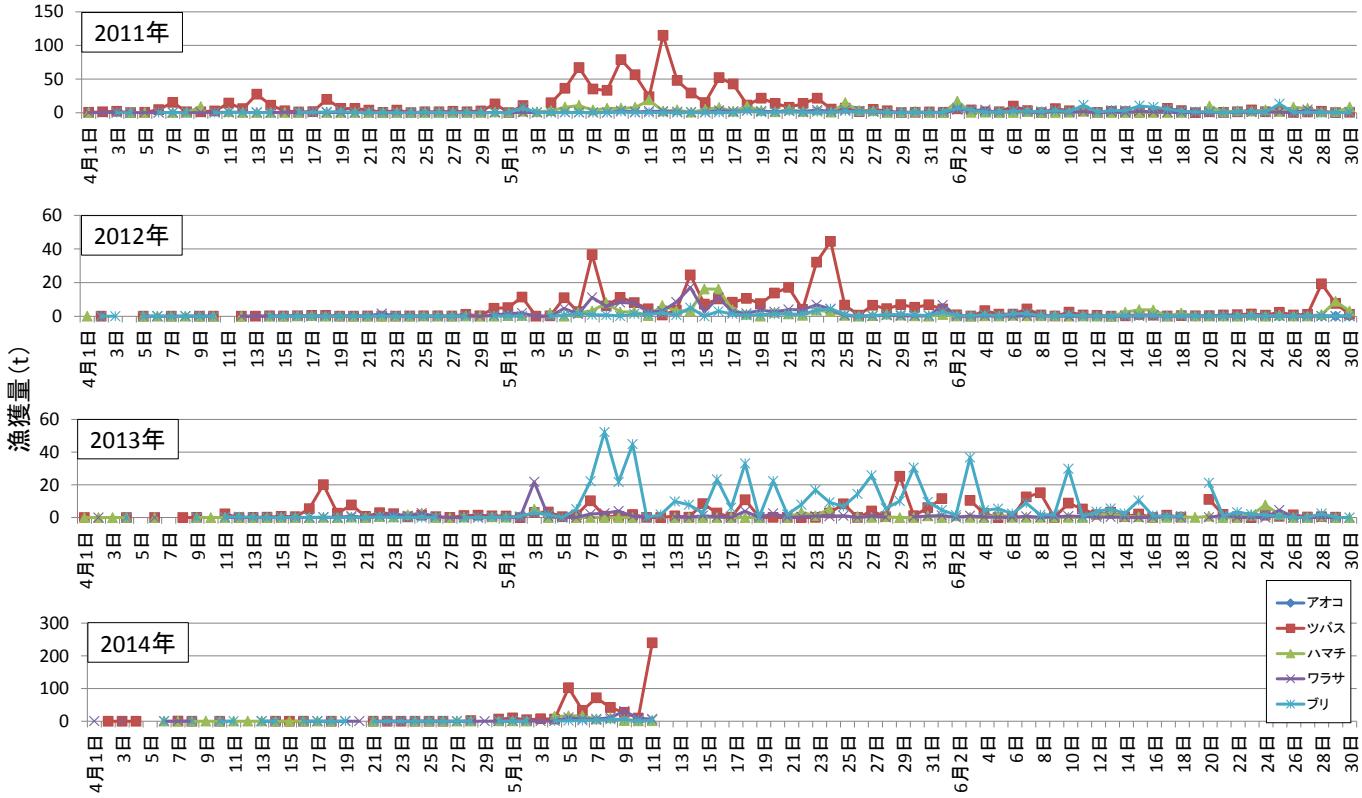


図２　ブリの日別漁獲量

例年、5～6月にかけて漁獲されるブリの大部分は若齢魚（ツバス・ハマチ銘柄）ですが、2013年5～6月は大型のブリ（ブリ銘柄主体）が多く漁獲されました。2014年については5月に入ってツバス銘柄を中心に、日によっては100t台～200t台の大量漁獲があった日もあり、5月上旬時点での定置網による漁獲量は全銘柄合計で735tに達し、前年同月（560t）及び平年同月（610t）をすでに上回っています。

しかし、本年は漁獲物がツバス銘柄主体であることや特定の日に集中的に漁獲されているためか、2014年5月上旬時点の全銘柄合計のkg単価については84円/kgで、2013年同月（189円/kg）及び2012年同月（136円/kg）を下回って推移しています。

※2014年5月の漁獲量やkg単価の集計値は上旬時点での途中集計で、一部の市場のデータが未集計の速報値です。また、平年値は10年平均の値を示しています。　　（宮田克士）